

文化スポーツ観光部

実施計画事業

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	7	説明資料	19	項目番号	2(1)
事務事業名	都市魅力PR事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	横須賀らしいエンターテイメントによる賑わいづくりや話題性のある取り組みを横須賀の都市の魅力として情報発信を行うことにより、市内外からの集客を生み、市内経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 音楽、スポーツ、エンターテイメント、地域資源を活用した取り組みなどを都市魅力として、情報発信を行う。 伝えたい情報に適した媒体を検討し、時世にあった発信を行う。 						
具体的な事業内容	本市の特性やポテンシャルを生かした新たな都市魅力を創出、PRするための取り組みを行う。エンターテイメントをテーマに、アートやダンス、音楽、地域資源の活用に関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

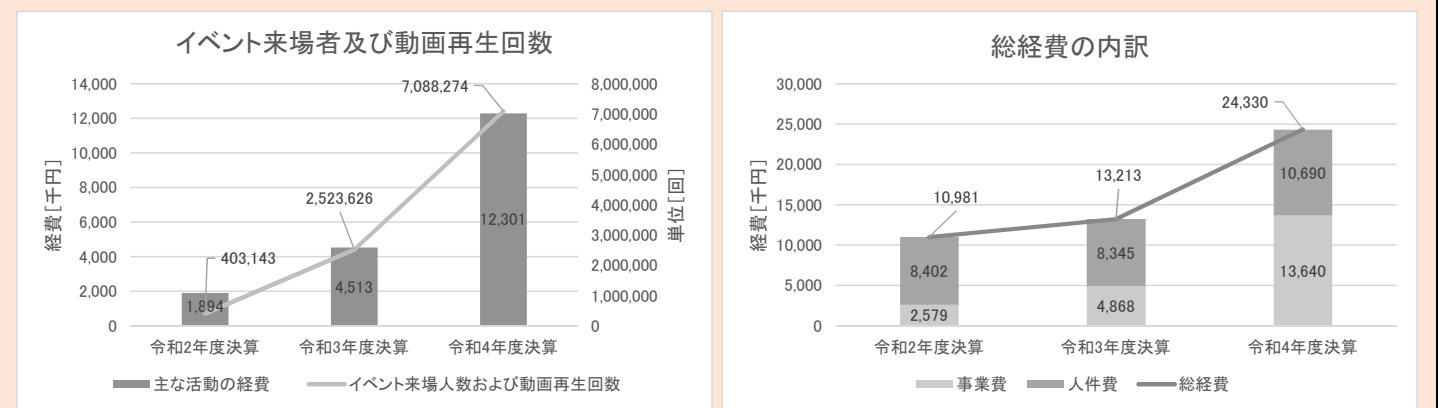
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 本市の特性やポテンシャルを生かした都市魅力の発信	イベント来場人数および動画再生回数	403,143	2,523,626	7,088,274	回
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	2,579	4,868	13,640	16,898	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	1,894	4,513	12,301	13,263	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	685	355	1,339	3,635	千円
b 人件費	8,402	8,345	10,690	10,573	千円
正規職員	1.0	1.0	1.0	1.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	2,259	2,259	千円
総経費(a + b)	10,981	13,213	24,330	27,471	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和2年度に引き続き、オンライン音楽ライブ配信を実施するとともに、令和2年度には開催を見送った猿島アートプロジェクトの実施にかかるPR施策を行った。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	これまでの取り組みに加え、令和4年度には、各種ダンス大会の誘致開催及び浦賀ドックを活用したイベントの実施と情報発信を行った。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度: コロナ禍の新たな試みである動画によるオンライン音楽ライブ配信にかかる情報を発信した。You Tuberとのコラボレーションにより、双方の目的に沿った結果を得ることができた。また、経費に関しても交通事業者との連携により、最小限に抑えることができた。その他の事業は軒並み中止となったため、経費が大幅に減少した。 令和3年度: 引き続き音楽ライブを発信すると共に、前年度は開催を見合わせた猿島アートプロジェクトの情報発信を行った。また、オンライン音楽ライブ配信は、より多くの注目される若手You Tuberとのコラボレーションにより、動画での情報発信の強化につながった。 令和4年度: 音楽ライブ、猿島アートプロジェクト情報発信の継続に加え、ダンス大会及び浦賀ドックを活用したイベントの実施と情報発信を行ったことにより、活動実績、総経費ともに増となった。 		
今後の事業の方向性	これまでの実績及びコロナ後の人の動きの動向なども見ながら、時世にあった情報発信を継続し、「本市の都市魅力」の認知の拡大と定着を目指す。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	23	項目番号	2(5)
事務事業名	ルートミュージアム推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 文化振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興					分野別計画
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	①ティボディエ邸と周辺の仕掛けづくり					
目標	ルートミュージアムの中核拠点である「ティボディエ邸」の管理・運営を行うとともに、ティボディエ邸及びルートミュージアムの認知度向上と集客促進に向けた取り組みを行い、多くの観光客に市内周遊を促し、長時間の滞在と消費増を目指し、地域経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	ルートミュージアム事業計画に基づき、中核拠点となるティボディエ邸の案内サインや展示充実等を図り、丁寧な観光案内等により、集客そして周遊を促すようにしていく。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ティボディエ邸の管理運営 ・ティボディエ邸の認知度向上と来訪を促すためのパンフレット制作 ・周遊を促すVRコンテンツ制作と周知PR 						

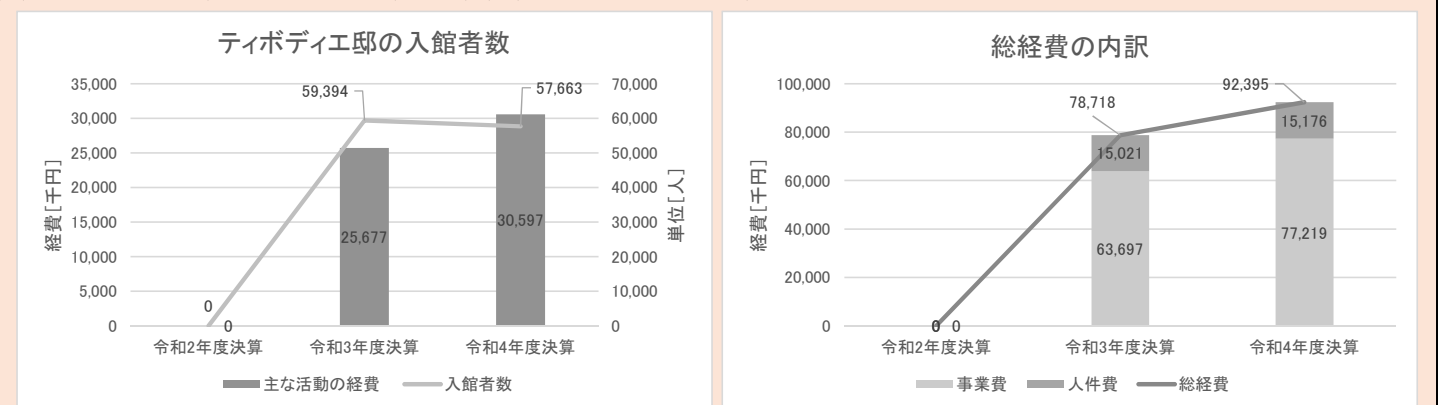
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① ティボディエ邸の入館者数	入館者数		59,394	57,663	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② ティボディエ邸のパンフレット制作	印刷部数	10,000	30,000	3,350	部
③ VRアプリのダウンロード数	ダウンロード数	5,988	5,231	5,768	回

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	0	63,697	77,219	41,634	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)		25,677	30,597	26,792	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)		38,020	46,622	14,842	千円
b 人件費	0	15,021	15,176	16,628	千円
正規職員		1.8	1.8	2.0	人
再任用職員(短時間を含む)					人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)					千円
総経費(a + b)	0	78,718	92,395	58,262	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和3年になって建物の完了検査、その後の外構工事もあり、更に新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響から、令和3年5月29日に開館した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	指定管理者が変更になった。 自主イベントを開催することができた。 シアター新作映像を制作した。(公開は令和5年6月3日)
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により入場者数も低迷していたが(R3は59,394人、R4は57,663人)、観光分野に寄与できる施設とのことで、コロナ交付金を活用して、シアターの新作映像を作成した。また、フランスデーなどのイベントも開催し、大きく周知PRした。ヴェルニー公園内にレストランがオープンしたため、関係性をつくり今後イベントでのコラボなど一緒に盛り上げていくことの調整を行った。</p> <p>【R2→R3】ティボディエ邸が完成により、運営管理の当該事業を立ち上げた。指定管理料や管理運営、展示や周知PRが主な内訳となる。オープニングイベントも開催し、6月に10,000人の来場があり盛況であったが、コロナの影響により伸びなかった。</p> <p>【R3→R4】R5年度がペリー来航170周年であるため、ペリー来航をテーマにした新ムービーを制作した。展示制作分の経費が減ったが、新ムービーを製作したことにより、全体で増となった。来館者数は引き続きコロナの影響で増えなかった。</p>		
今後の事業の方向性	<p>新しい映像や、隣接のレストランとの連携など、今ある魅力ある資源を最大限に活用して、よこすか近代遺産ミュージアムティボディエ邸の魅力を発信することにより、誘客を図り、横須賀市全体の観光周遊促進に寄与したい。</p>		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	25	項目番号	2(6)
事務事業名	街なかミュージック支援事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	①音楽によるにぎわいづくり					
目標	市、事業者及びアーティストが協力し、街なかをステージとした音楽ライブの場を創出・提供していくとともに、アーティストやその活動、イベント情報を発信し、常に音楽のあふれた、ワクワクする街づくりを進めていく。						
目標達成に必要なこと	街なかで音楽に触れ合う機会の充実として、音楽ライブの実施やいつでも音楽を奏でる場所を提供するとともに様々な媒体で情報発信する。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽ライブの実施 ・アーティストの出演の場の創出 ・ヨコスカ街なかピアノの設置 ・WEBサイトやSNS等での市内外への情報発信 						

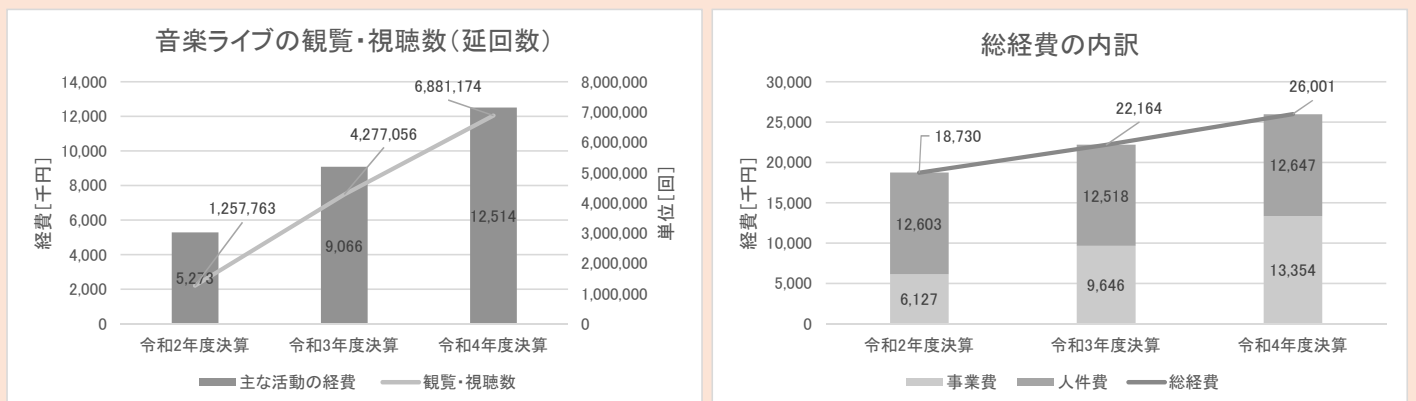
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 音楽ライブの開催	観覧・視聴数	1,257,763	4,277,056	6,881,174	回
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	6,127	9,646	13,354	14,817	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	5,273	9,066	12,514	13,591	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	854	580	840	1,226	千円
b 人件費	12,603	12,518	12,647	12,471	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	18,730	22,164	26,001	27,288	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R2年度⇒R3年度</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式に対応した無料オンラインライブや市内各所での演奏の様子のYouTube配信などの事業展開を強化した結果、400万回を超える動画視聴回数となった。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R3年度⇒R4年度</p> <p>・街なかでのライブ開催に加え、オンラインによるライブ模様の配信を継続的に行った結果、650万回を超える動画視聴回数となった。</p> <p>・平和中央公園などで音楽アーティストの演奏風景の動画を配信するなど、音楽を活用した地域資源の魅力PRを行った。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式に対応したオンライン配信などの事業展開を継続的に実施した結果、令和3年度は400万回、令和4年度は650万回を超える動画視聴回数となり、多くの方に街なかミュージックライブを通して、横須賀の魅力PRできた。令和3・4年度は国庫補助金を活用し、SNSを活用したライブ映像の配信などを強化したため、令和2年度と比較して増額となった。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による市内音楽家の支援として、出演調整を行ったため増額となった。</p>	
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>常に音楽のあふれた街の実現に向けて、街なかでのライブや音楽活動の場の創出を進めていくとともに、令和2年度から実施したSNSでの配信を強化し、全国の音楽ファンに横須賀ならではの自然や歴史ある街の魅力を音楽と併せて発信していく。</p>	

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	25	項目番号	2(7)
事務事業名	エンターテイメント推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテイメントによるにぎわいの創出					
	小柱	②ダンスによるにぎわいづくり					
目標	アート、ダンス、音楽を切り口とし横須賀らしいエンターテイメントによる継続的な賑わいづくりを、エンターテイメントを横須賀の都市魅力として内外に発信する。エンターテイメント＝横須賀のイメージが広く認識されることにより、地域ブランド力の向上と地域活性化を目指す。						
目標達成に必要なこと	・横須賀ならではの地域資源の活用 ・民間企業との連携による、より話題性の高い取り組みの実施						
具体的な事業内容	エンターテイメントをテーマに、アートやダンスに関する質や発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

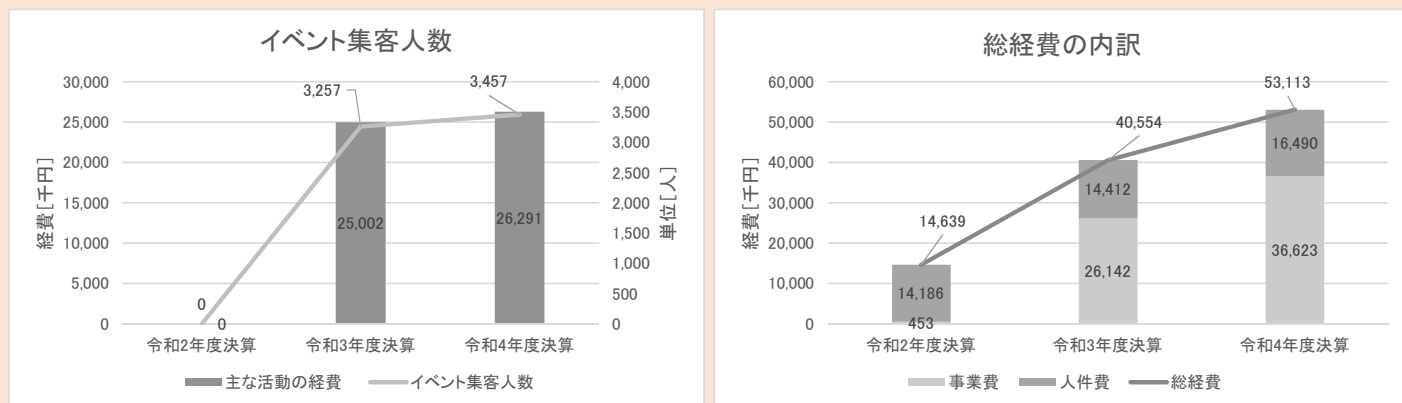
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
①「猿島アートプロジェクト」の実施	イベント集客人数	0	3,257	3,457	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②「ダンスプロジェクト」の推進	プロジェクト参加者	220	118	3,287	人
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	453	26,142	36,623	45,045	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	25,002	26,291	26,575	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	453	1,140	10,332	18,470	千円
b 人件費	14,186	14,412	16,490	16,783	千円
正規職員	1.0	1.0	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	5,784	6,067	3,843	4,312	千円
総経費(a + b)	14,639	40,554	53,113	61,828	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせた。令和3年度は、会期を11-12月から1-3月に変更して開催した。開催に際しては、来場者数の制限および開催時間の短縮などの対策を講じた。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	会期を11-12月に戻し、陸側での作品展示や美術館でのワークショップの開催などにより、猿島アートプロジェクトの面的な拡充を試みた。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度: 新型コロナ感染症の影響により、猿島アートプロジェクトは開催を見合わせ、ダンスに関する取り組みは縮小して実施した。 令和3年度: 猿島アートプロジェクトは、会期を11-12月から1-3月に変更して開催した。前年度の中止と会期を延期しての開催であったことに加え、会期が蔓延防止措置期間となったことから来場者数は減となった。一方で、夜間に離島で開催する芸術祭であることからメディアの反響は大きく、令和元年度55件だった掲載件数は、令和3年度は95件と大幅に増加し、次年度に繋がる情報発信を進めることができた。 令和4年度: 会期を11-12月に戻し、陸側での作品展示や美術館でのワークショップの開催などにより、猿島アートプロジェクトの面的な拡充を試みた。また、優れた地域の取り組みとして、日本最大のデザイン賞である「GOOD DESIGN AWARD 2022」を受賞することができた。 		
今後の事業の方向性	令和5年度は、これまでの3回の開催実績を振り返り、次年度開催に向けた調査・検討およびミニイベントを行う。令和6年度は、今年度の調査・検討を踏まえてリニューアルを行い開催する。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	20	説明資料	36	項目番号	2(1)
事務事業名	美術館展覧会事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 美術館運営課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	その他	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法律や政令で実施が定められているものの、その実施内容や実施方法、実施体制については市に委ねられている業務						
根拠法令	博物館法						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市教育振興基本計画
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑥美術館の集客力の向上					
目標	次世代を担う子どもたちを含めた多くの人々が、質の高い美術に対する深い理解と親しみを心得、心の豊かさを充足する機会を提供する。また、郷土ゆかりの作品を展示し、市民や作家の交流を通じて、新たな文化を発信する。						
目標達成に必要なこと	すべての人に開かれた美術館であるために、年間の企画展・所蔵品展を通じて幅広いジャンルの展覧会を開催する。展覧会の効果を最大限発揮するために、教育普及事業や、他部課や民間事業者と連携をはかる。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に親しみやすく、集客を見込める展覧会の開催。またそれに関連する野外イベントの実施。 ・親子を対象にした、質が高くかつ身近に感じられ、美術館に親しめる内容の展覧会の開催。 ・横須賀、三浦半島という地域に関連のある展覧会の開催。 ・横須賀美術館のコレクションを核とし、調査研究をふまえて新たな着眼点で構成する所蔵品展、谷内六郎展の開催および情報発信。 						

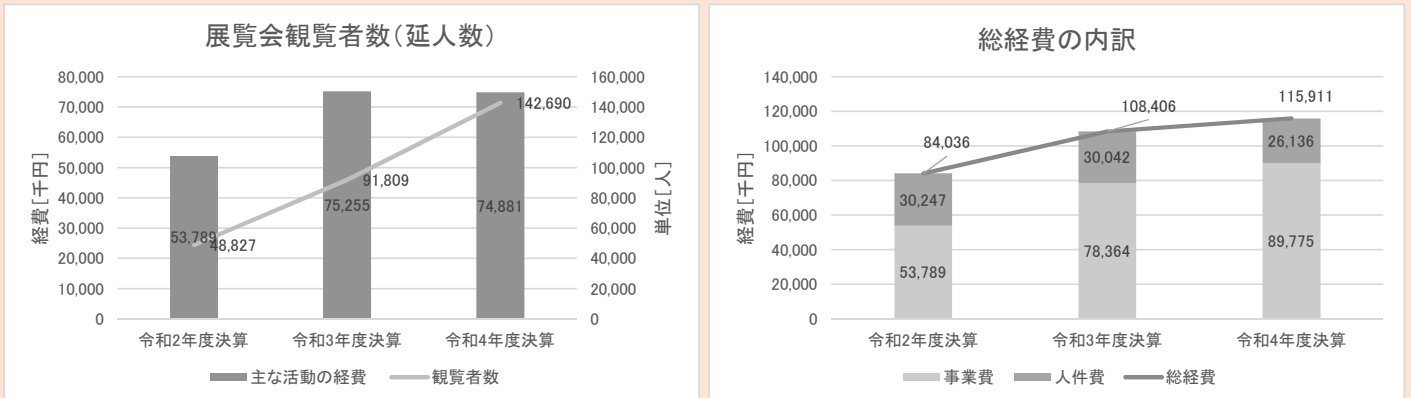
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 展覧会開催	観覧者数	48,827	91,809	142,690	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 展覧会に関連した野外イベントの開催	開催回数	1	3	3	回
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	53,789	78,364	89,775	92,701	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	53,789	75,255	74,881	80,161	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	3,109	14,894	12,540	千円
b 人件費	30,247	30,042	26,136	25,773	千円
正規職員	3.6	3.6	3.1	3.1	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	84,036	108,406	115,911	118,474	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	R2年度はコロナの影響で企画展は2本中止とし、一部会期中で臨時休館をし、合計で年間148日休館した。R3年度はコロナで39日間休館した。そのため観覧者数も年度当初の目標11万人よりも低い数値となっている。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	R4年度に教育委員会から市長部局へ移管した。この年は、地域の文化財に着目した特別展「運慶展」や「スカジャン展」を開催し、大きな反響を得た。またコロナによる休館はなかった。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	主な活動実績として「展覧会開催」を掲げており、R2、3年度はコロナ禍という状況で、臨時休館が増えたため、観覧者数や総経費が低くなった。R4年度はコロナも落ち着き始め、数年ぶりにコロナによる臨時休館はなかった。また、市長部局への移管があり、「運慶展」や関連事業として能楽公演、地域と連携して取り組んだ「スカジャン展」を開催した。多くの方に足を運んでいただき、観覧者数は大きく伸びた。またR4年度のその他活動経費が増えたのは観世喜正氏、野村萬齋氏による能楽公演を開催したためである。この数年はコロナという要因があり、また企画展の内容は毎年変わるために、個々の展覧会にかかる経費や観覧者数には変動があるが、概して目標人数は達成している。		
今後の事業の方向性	美術館展覧会事業は、社会教育に寄与すると同時に、本市の重要な魅力発信、まちづくりや観光事業にも寄与するので、事業は継続する。同時により質や効果が高い内容を検討する。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	43	項目番号	2(1)
事務事業名	商業振興対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	地域経済及び地域コミュニティの核となる商店街の組織力強化や振興を図ることで、市内経済の活性化及び市民生活の利便性向上につなげるため、商店街団体を対象にした諸施策を行う。また、魅力ある店舗や、意欲的な事業者を支援することで、市内消費の拡大及び商業の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街や関係団体と連携し経済活性化を図る。 ・観光、文化、スポーツなどによる集客を市内消費につなげる。 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 商工会議所等関係団体との連携 (3) 中小事業者のEC導入及びSNS発信等の支援や、店舗出店促進の支援など 						

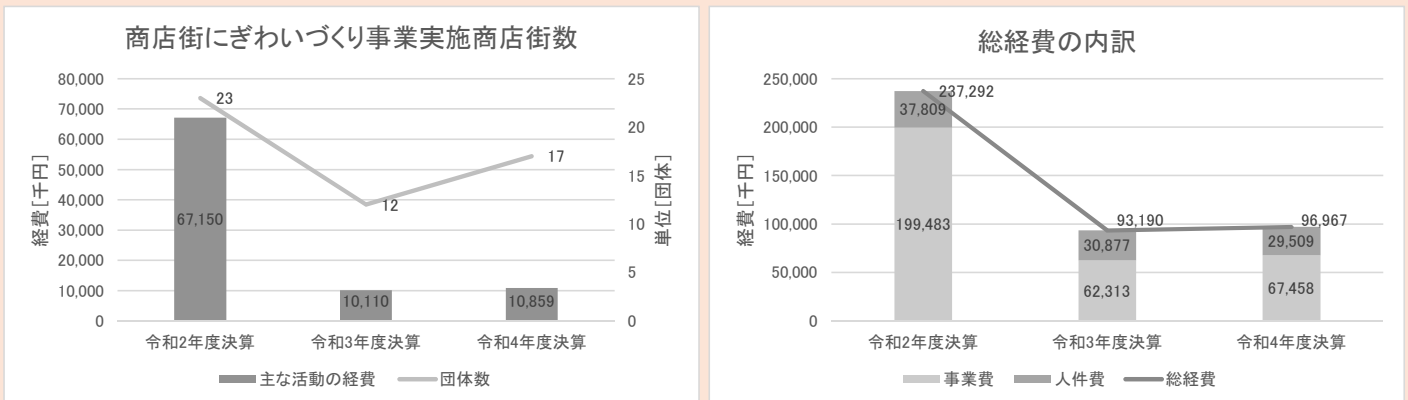
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 商店街にぎわいづくり事業実施商店街数	団体数	23	12	17	団体
その他の活動実績	活動(指標)名				単位
② 商店街プレミアム商品券事業補助金	件数			10	件
③ 空き店舗出店促進事業補助金	件数	4	4	5	件

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	199,483	62,313	67,458	85,071	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	67,150	10,110	10,859	14,837	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	132,333	52,203	56,599	70,234	千円
b 人件費	37,809	30,877	29,509	33,256	千円
正規職員	4.5	3.7	3.5	4.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	237,292	93,190	96,967	118,327	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の経済対策として、補助率を1/3⇒4/5に拡充し、補助上限額を撤廃したが、令和3年度は従前の補助制度に戻して支援を行った。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	近年申請がなかった商店街地域連携共同事業を廃止し、商店街が空き店舗を借り上げ、町の賑わいを生み出すためのスペースづくり、仕掛けづくりを行うことに対して支援する「商店街空き店舗活用事業」を新設した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	主に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済対策として補正予算で実施した事業があったため経費が増減した。 令和2年度は商店街街路灯等電気料金等補助金や、商店街にぎわいづくり事業補助金の補助率のかさ上げ、飲食業等応援事業補助金等の臨時的事業を実施した。 令和3年度はワクチン接種推進キャンペーン補助事業を臨時で行った。 令和4年度は物価高騰対策として、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げと、商店街プレミアム商品券事業補助を臨時で実施した。		
今後の事業の方向性	イベントへの補助金や、電気代補助、施設改修補助は商店街団体の運営にも関わる補助のため継続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	45	項目番号	3(1)
事務事業名	まちなか活性化事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑤個性ある商店街への支援					
目標	プロスポーツチームのホームタウンやルートミュージアムサテライト、歴史や文化等を活用し、商店街が行う各地域の特色を生かした、観光、集客等につながる活性化策を支援し、まちなかにぎわいの創出を図る。また、再開発や企業進出等の活性化の芽を商業振興につなげる。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を商店街と共有し、それを活かしたにぎわいの創造。 ・拠点市街地での商業施設・ホテルなどの設置に対する支援制度の継続。 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 民間の力でされるまちなかにぎわいづくり事業との連携、支援を行う。また、他都市等の市街地活性化施策を研究し、まちなかの活性化を図る。 (3) 拠点市街地でのホテル・商業施設の設置を促進するための支援制度の周知を行う。 						

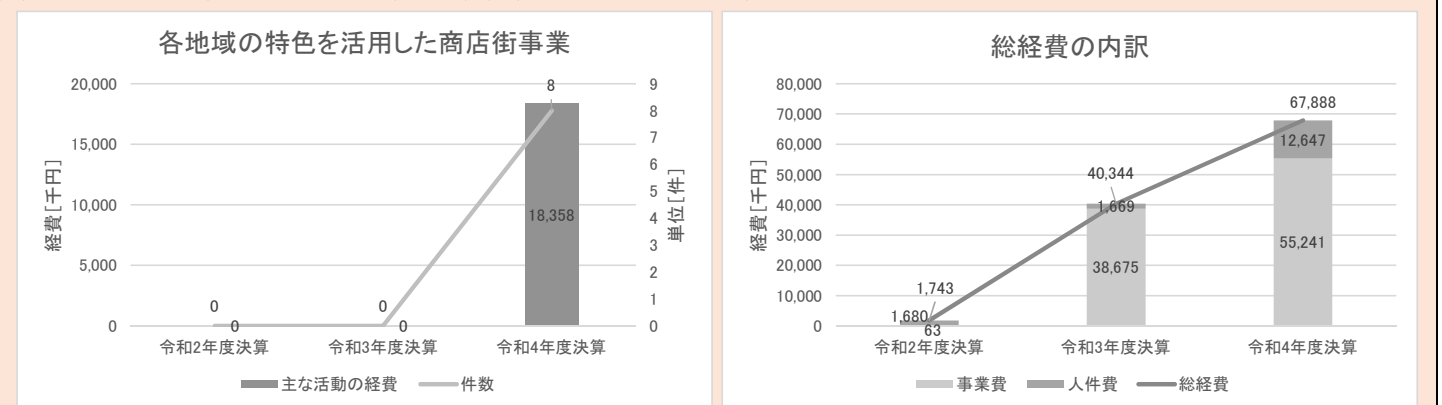
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 各地域の特色を活用した商店街事業	件数			8	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 旧三笠駐車場用地ホテル施設誘致にかかる奨励金	件数	0	1	1	件
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	63	38,675	55,241	58,263	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)			18,358	21,000	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	63	38,675	36,883	37,263	千円
b 人件費	1,680	1,669	12,647	16,628	千円
正規職員	0.2	0.2	1.5	2.0	人
再任用職員(短時間を含む)					人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)					千円
総経費(a + b)	1,743	40,344	67,888	74,891	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	特になし	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	市内各所の市街地にぎわいをより促進していくため、令和4年度より事業名を「中心市街地活性化事業」から「まちなか活性化事業」に変更。各地域の特色を生かした取り組みに対しての支援を行った。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和2年度はコロナ禍の影響により、先行事例の視察や研修会参加等を中止とした。また、にぎわいを生むための中心市街地活性化事業補助金の交付事業が中止となったため例年と比べて決算額が下がった。令和元年に事業計画認定を行ったホテルが令和3年12月に開業し、減税制度による減税及び、各種奨励金の支出が令和3年度から令和7年度までの5年間見込まれている。令和4年度は、「中心市街地活性化事業」から「まちなか活性化事業」に変更し、中心市街地だけでなく、市内各所の市街地にぎわいをより促進するため、横浜F・マリノス練習場のオープンや大河ドラマなどを契機とした、各地域のスポーツや歴史等を活用した事業への商店街補助も拡充・新設したため、増額している。		
今後の事業の方向性	拠点市街地でのホテル・商業施設の設置支援を継続するとともに、市内各所の市街地にぎわいの促進を継続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	48	項目番号	2(1)ほか
事務事業名	観光振興総務費								所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	事業終了の見込	未定	
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	観光産業を主要産業へ成長させることにより、地域経済の活性化や雇用の増加を図り、市民や市内企業の収入を増やすとともに、市外からの投資も誘引させる。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 本市の自然や日本遺産などの歴史と、音楽・スポーツ・エンターテインメントを融合させ、相乗効果により発信力を高め、他地域と差別化を図る。 それにより、これまで横須賀に目を向けることが少なかった客層を誘客し、都市として「楽しそう」「面白そう」「わくわくするイメージ」を発信する。 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光施策の実効性の確保のため、観光振興推進委員会を開催する。 新たなお土産の開発・支援(おみやげコンテストの開催、入賞作品のPRなど) 観光客調査を通じて、観光客数や観光動態の状況確認を行い、今後に向けた観光施策の基礎資料とする。 海洋都市を目指し、マリンレジャー関連事業を実施し、普及促進を行う 						

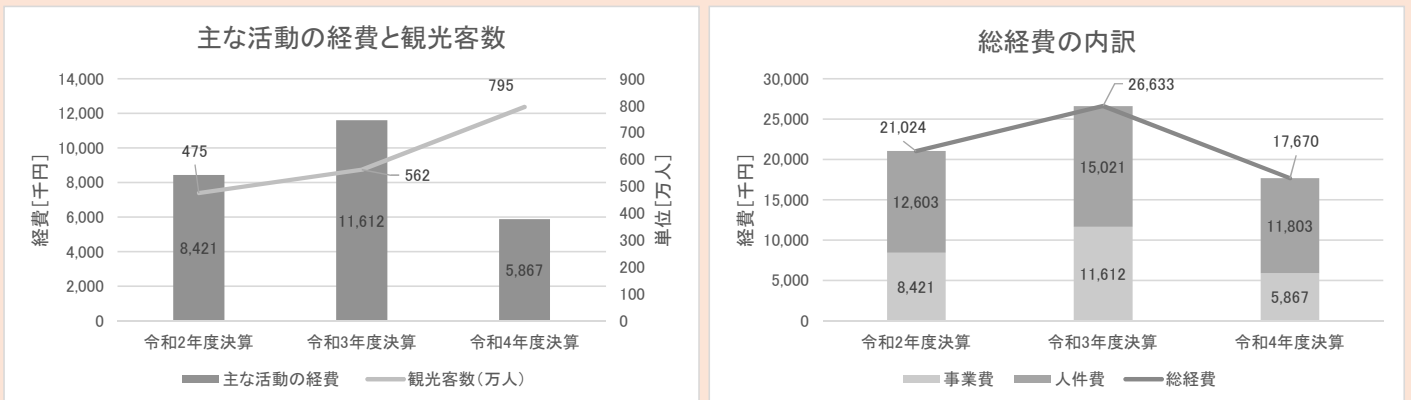
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 観光客数	観光客数(万人)	475	562	795	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 観光消費額	消費額(億円)	243	225	379	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	8,421	11,612	5,867	6,387	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	8,421	11,612	5,867	6,387	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)					千円
b 人件費	12,603	15,021	11,803	14,965	千円
正規職員	1.5	1.8	1.4	1.8	人
再任用職員(短時間を含む)					人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)					千円
総経費(a + b)	21,024	26,633	17,670	21,352	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和3年度は、訪日外国人受入環境向上事業委託の終了などがあったが、観光マーケティング調査委託の実施や、お土産開発支援事業補助金の創設などを行った。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	令和3年度は、観光マーケティング調査委託や汐留バス停の副名称設定に伴う変更委託が実施されたが、これらの委託は単年度実施の事業であるため、令和4年度では行われていない。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、「おみやげアイデアコンテスト」を新たに実施し、8件が受賞するとともに、令和元年度における観光マーケティング調査を実施した。経費については、訪日外国人受入環境向上事業委託の終了(▲4,356千円)、三笠循環バスのルート変更などの支出の減(▲3,386千円)などがあったが、観光マーケティング調査委託(5,273千円)やお土産開発支援事業補助金(5,150千円)、汐留バス停留所などの変更(501千円)に伴う経費の増があった。 令和4年度は、前年に引き続き「おみやげアイデアコンテスト」を実施し、7件が受賞。3年度4年度の受賞作品のうち販売を開始した商品を集めて市内観光施設等で販売会を2回行った(5,150千円)。また、例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」を年4回行った(375千円)。令和3年度と比較して観光マーケティング調査委託の減(▲5,273千円)や汐留バス停留所などの変更経費の減(▲501千円)などにより、経費が大幅に減少している。様々な活動や取組の実績により、コロナで落ち込んでいた観光客数も年々増加傾向にあり、コロナ前の9割程度まで戻ってきた。 		
今後の事業の方向性	今後も、観光産業を主要産業へ成長させることにより地域経済の活性化を図り、そのために必要な事業を継続して実施するとともに、国や県などの補助金の活用や、民間事業者の人材、ノウハウ、資金などを活用し、コラボレーションをすることで、より魅力的で話題性のある事業を展開していく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	49	項目番号	3(1)
事務事業名	集客プロモーション事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					観光立市推進アクションプラン
	小柱						
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。						
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。						
具体的な事業内容	(1) ルートミュージアムの推進による市内周遊の促進(周遊満足度の向上、ICTの活用、移動手段の充実など) (2) サブカルチャーを活用した観光推進(アニメ、ゲームなど) (3) スポーツを活用した集客(プロスポーツチーム連携、eスポーツ、アーバンスポーツなど) (4) 情報発信(SNSや観光情報サイト)						

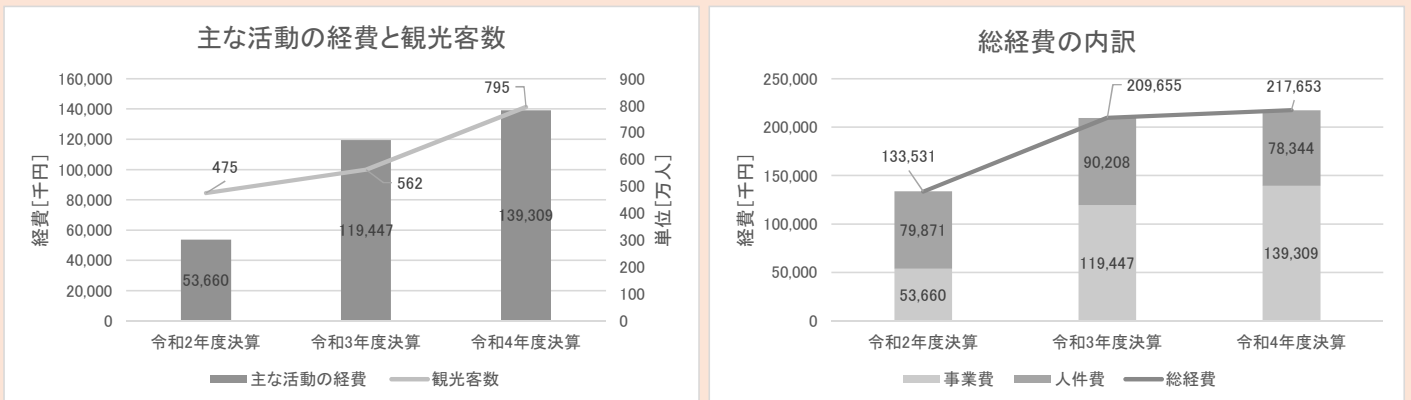
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 観光客数	観光客数	475	562	795	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 観光客消費額	消費額	243	225	379	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	53,660	119,447	139,309	168,111	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	53,660	119,447	139,309	168,111	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	79,871	90,208	78,344	90,603	千円
正規職員	8.5	9.5	8.0	9.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	8,454	10,930	10,896	11,620	千円
総経費(a + b)	133,531	209,655	217,653	258,714	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R2年度⇒R3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなICT拠点となる「スカビア」を開設した。 令和3年度に開館したティポディエ邸を中心としてルートミュージアムの活用を行った。 浦賀地域を中心に「MEGURU PROJECT」を実施した。 よこすか海のアニメカーニバルを開催した。 THE Base APARTMENTSを整備し、地域との交流に意欲的なeスポーツチームを誘致した。 	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R3年度⇒R4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> よこすか海のアニメカーニバルは実施しなかったが、新たなサブカルチャーとのコラボとして、「モンスターハンター・サンブレイク」とのコラボイベントを開催した。 e-sportsの普及促進として、「YOKOSUKA e-Sports Town Club CUP」を開催した。 子供向けの夏休みイベントとして、謎解きイベントを開催した。 海上自衛隊創設70周年記念国際観艦式における音楽イベントを実施した。
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>【主な活動実績】</p> <p>令和4年度は、ルートミュージアム周遊促進の一環として、令和3年度に引き続き、浦賀地域を中心に歴史的遺産を周遊する「MEGURU PROJECT」を実施した。また、新たなサブカルチャーとのコラボとして、大人気ゲーム「モンスターハンター」シリーズの最新作が発売されるのにあわせ、コラボイベントを実施した。</p> <p>e-Sportsの普及促進としては、市内高校のレベルアップを目的として、市内在学の学生限定のeスポーツ大会「YOKOSUKA e-Sports Town Club CUP」を新たに開催した。</p> <p>観光客数および観光客消費額については、令和2年度はコロナウイルスの影響で大幅に減少したが、令和3年度から令和4年度にかけて大型イベントやバスツアーの再開などにより、回復基調にある。</p> <p>【総経費の内訳】</p> <p>令和2年度に比べると令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったこともあり、イベントが増えたため事業費が大幅に増加した。また、令和4年度にかけてもイベントの回復などにより、事業費が増加した。</p>
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線をつなぎで展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。</p>

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	52	項目番号	3(2)
事務事業名	セールスプロモーション事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					観光立市推進アクションプラン
	小柱						
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。						
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。						
具体的な事業内容	(1) ツアーセールス: 団体客誘致(バスツアー等)のためのセールス活動 (2) メディアセールス: テレビ、新聞、雑誌、WEB等のメディアでの露出を図るためのセールス活動						

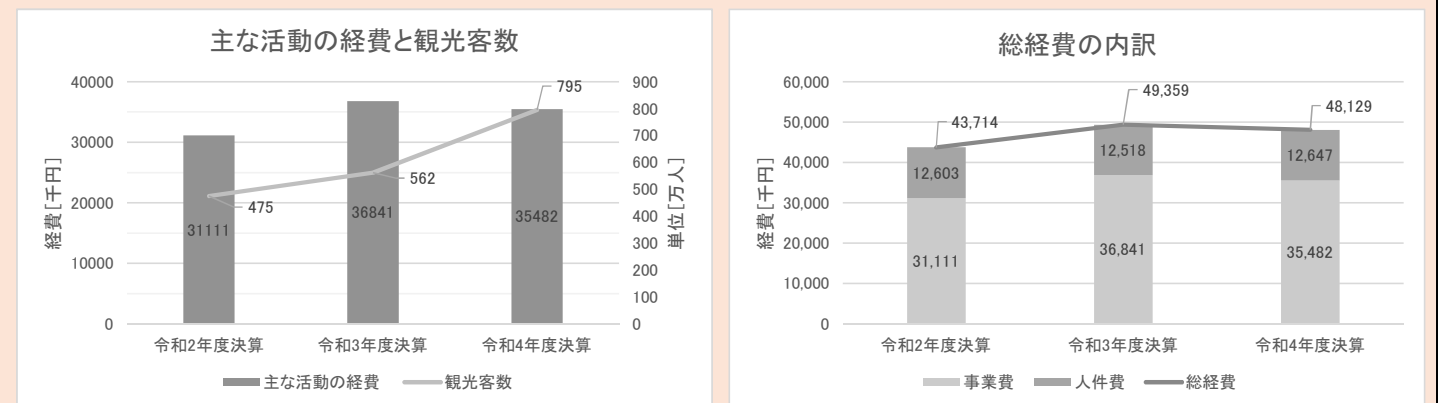
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 観光客数	観光客数	475	562	795	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 観光客消費額	消費額	243	225	379	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	31,111	36,841	35,482	45,395	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	31,111	36,841	35,482	45,395	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	12,603	12,518	12,647	12,471	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0.0	0.0	0.0	0.0	千円
総経費(a + b)	43,714	49,359	48,129	57,866	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	2年度はコロナウイルスの影響で多くのツアーが延期、中止となったため、11,240千円を3年度に繰り越した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	特になし
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	【主な活動実績】 ツアーセールス事業については、バスツアー助成事業の3年度実績が188件(6,480千円)であったのに対し、4年度実績は517件(18,746千円)と約3倍増となり、着実にコロナ禍からの回復傾向の兆しを見せている。 観光客数および観光客消費額については、令和2年度はコロナウイルスの影響で大幅に減少したが、令和3年度から令和4年度にかけて大型イベントやバスツアーの再開などにより、回復基調にある。		
今後の事業の方向性	新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線をつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	57	項目番号	7(1)
事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 (ウインドサーフィンワールドカップの誘致等)								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	②マリンスポーツ、マリンレジャーによるにぎわいづくり					
目標	ウインドサーフィンワールドカップの開催を契機に、まちに賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としての地域ブランド力の向上を図り、地域の活性化を目指す。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ワールドカップを継続的に開催するために、民間企業など外部団体からの支援、協力をしていただけるような大会づくりを行う 目指すまちづくり、賑わいの創出に地域住民が率先して参加できるような環境づくりを行う 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 津久井浜海岸でのウインドサーフィンワールドカップの継続開催 スピード競技以外の競技クラスの全国大会誘致 IQフォイル強化練習会の誘致 ジュニアトップアスリート発掘・育成のためのウインドサーフィンアカデミーの実施 						

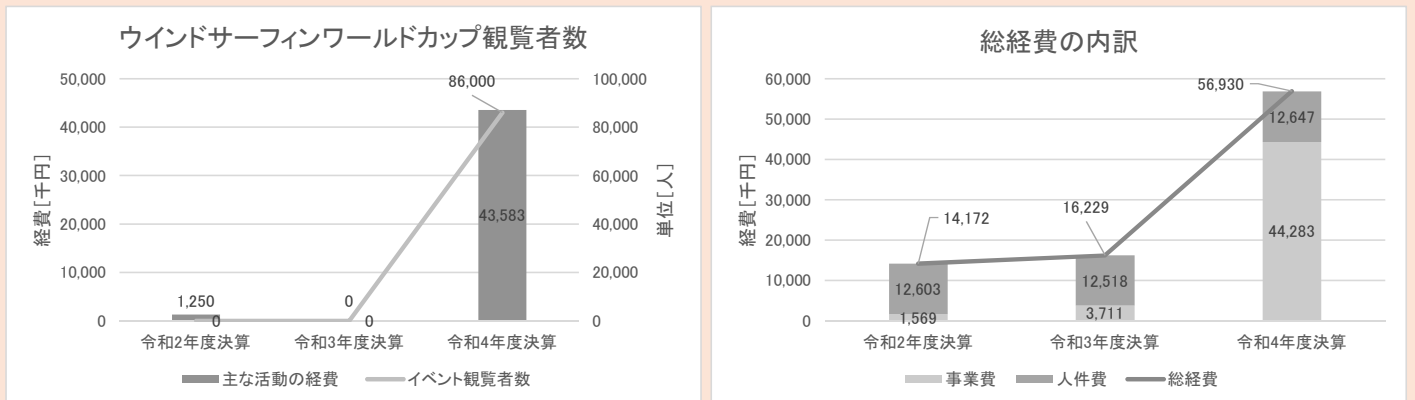
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① ウインドサーフィンワールドカップの実施	イベント観覧者数	0	0	86,000	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 全国大会や練習会の誘致	誘致件数	1	3	3	回
③ ウインドサーフィンアカデミーの実施	受講者数		12	4	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	1,569	3,711	44,283	73,323	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	1,250	0	43,583	72,010	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	319	3,711	700	1,313	千円
b 人件費	12,603	12,518	12,647	12,471	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	14,172	16,229	56,930	85,794	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	新型コロナウイルス感染症により、2年連続で大会は中止となったが、全国規模の各種目のウインドサーフィン大会を集結させたウインドサーフィンフェスティバルを開催し機運醸成に努めた。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	3年ぶりに開催したワールドカップにおいて、新型コロナウイルス感染症に対応してレースのライブ動画などオンライン配信を行った結果、来場者数31,000人、動画観覧数55,000人の計86,000人が観覧し、全世界に大会及び津久井浜海岸の魅力をもPRすることができた。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和2年度、3年度はともに新型コロナウイルス感染症により、ワールドカップが中止となったため、開催経費が減、主な活動の実績がゼロとなったが、各年度、大会ブランディングの実施、ウインドサーフィンフェスティバルの開催を行い、継続開催に向けた準備や機運醸成に努めた。令和4年度はワールドカップを開催したため、増額となった。		
今後の事業の方向性	W杯を継続的に開催するとともに、ナショナルチーム強化合宿や大学等の合宿誘致、ジュニアトップアスリートの発掘・育成、全国規模の大会誘致などを行うことで、まちにさらなる賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としてのイメージの定着、地域ブランド力の向上を図り、交流人口の増加、民間企業による投資促進などを旨とする。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	58	項目番号	7(1)
事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 (BMXフリースタイルジャパンカップの誘致等)								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					横須賀市スポーツ推進計画
	小柱	③アーバンスポーツ、eスポーツによるにぎわいづくり					
目標	BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催を契機に、アーバンスポーツの普及・振興および地域活性化を図る。 また、アーバンスポーツを文化として根付かせ、アーバンスポーツの聖地として若者が集うまちとなり、本市の新たな魅力を創出・発信していく。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)全日本フリースタイルBMX連盟や関連団体・企業との連携 ・地元住民や子供を中心とした普及活動を実施し、「アーバンスポーツのまち横須賀」の認知度向上 ・BMXフリースタイルジャパンカップを継続開催させ、アーバンスポーツツーリズムへの展開などアーバンスポーツの関係人口増加 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催 ・アーバンスポーツツーリズムのコンテンツ創出に向けた取り組み(普及事業)の実施(学校訪問、体験会、デモンストレーション等) ・うみかぜ公園「BMXパーク」のオープンおよび新たな施設整備に向けた調整と財源を含めた検討 						

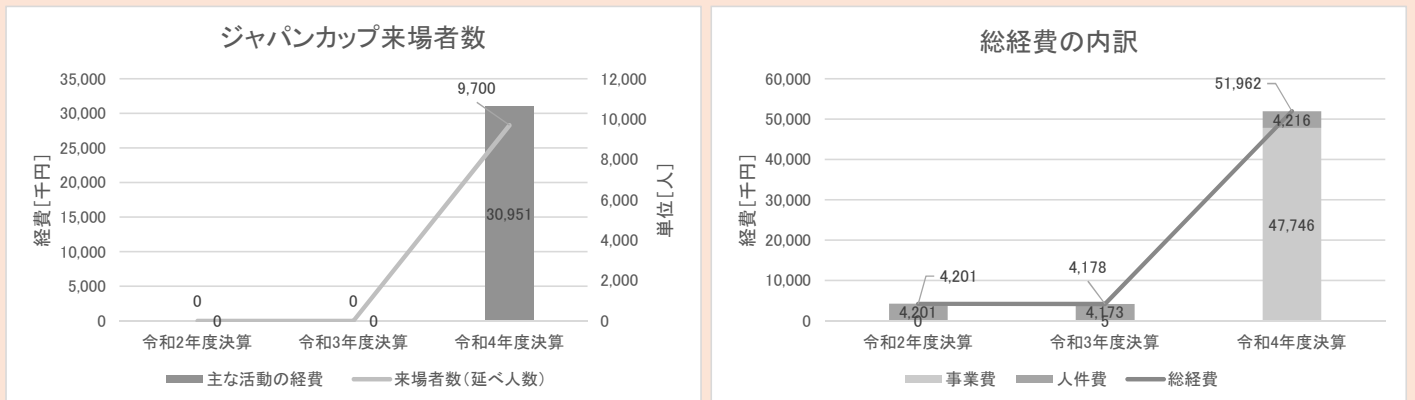
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① BMXフリースタイルジャパンカップの開催	来場者数(延べ人数)			9,700	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② アーバンスポーツツーリズムコンテンツ創出事業(普及事業)の実施	参加者数			3,392	人
③ うみかぜ公園「BMXパーク」のオープン	利用者数			661	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	0	5	47,746	48,775	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	0	30,951	30,951	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	5	16,795	17,824	千円
b 人件費	4,201	4,173	4,216	4,157	千円
正規職員	0.5	0.5	0.5	0.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	4,201	4,178	51,962	52,932	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度も延期となった。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	新型コロナウイルス感染症の影響により延期していたが、初開催することができた。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施であったが、令和4年度はBMXフリースタイルジャパンカップを開催することができたため、開催にかかる経費が増加した。 また、大会開催にあたり、市内外へのプロモーションを重点的に行ったことにより、目標値(7,500人)を上回る来場者数となった。		
今後の事業の方向性	引き続きジャパンカップの誘致・開催を目指すとともに、BMXを中心としたアーバンスポーツの普及事業を継続的に実施することで、アーバンスポーツを通じた地域活性化を図り、関係人口の増加、本市の魅力発信につなげ、「アーバンスポーツの聖地」を目指す。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	58	項目番号	7(2)
--------	----	------	---	---	---	---	---	---	------	----	------	------

事務事業名	国際会議等誘致事業								所管部課名	
-------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	-------	--

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱	②宿泊者等の増加					
目標	学会・スポーツ大会・スポーツ合宿を誘致し、出席者の宿泊、飲食、観光等による経済効果の増加や、市のブランドイメージの向上と発信を図る。						
目標達成に必要なこと	学会の開催やスポーツ合宿について働きかけを行うとともに、運営面等を積極的に支援する。						
具体的な事業内容	本市で学会・スポーツ大会の開催やスポーツ合宿を行う市外の団体に対し、働きかけを行うとともに、運営を支援することで、誘致を促進し、新たなイメージの創出及び地域経済の活性化を図る。						

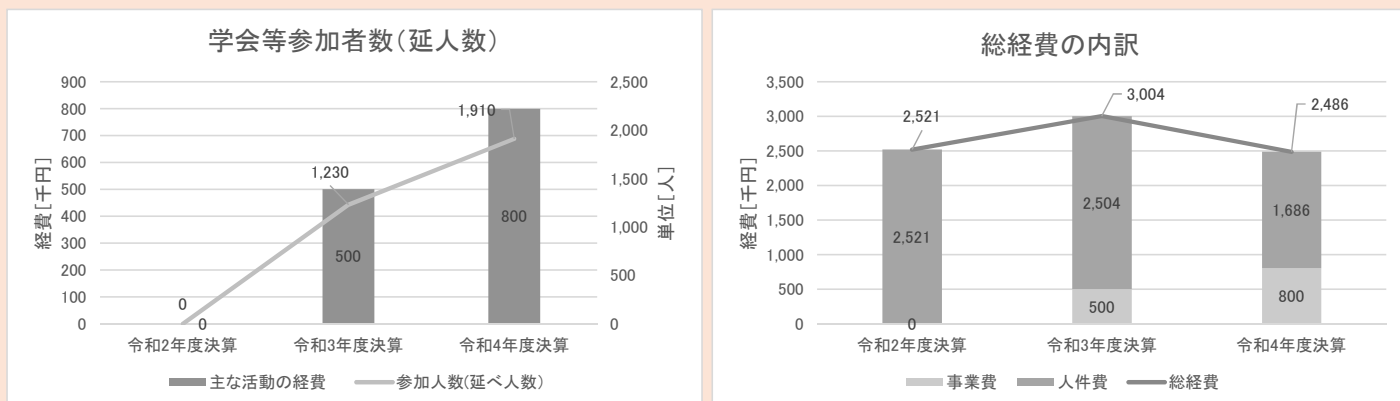
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 学会・スポーツ合宿等の開催支援	参加人数(延べ人数)	0	1,230	1,910	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 学会・スポーツ合宿等の開催支援	補助金交付額	0	500	800	千円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	0	500	800	2,368	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	500	800	2,350	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	18	千円
b 人件費	2,521	2,504	1,686	1,663	千円
正規職員	0.3	0.3	0.2	0.2	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	2,521	3,004	2,486	4,031	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	特になし	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	市内の宿泊施設や飲食店など、行政以上に事業者との密な連携が図れる強みをもつを一般社団法人観光協会へ、団体からの事前相談などの支援業務を引き継いだ。
--------------------------------------	------	--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和2年度は、新たな補助対象として、スポーツ大会・スポーツ合宿を加えたが、コロナの影響により、オンライン開催への変更や開催中止が相次ぎ補助金の申請はなかった。 令和3年度は、コロナの影響が続く中、学会については現地会場とオンライン形式併用の開催、スポーツ合宿も行われ、補助金交付件数が4件、参加人数は1,230人となった。 令和4年度は、コロナの影響をほとんど受けず、補助金交付額が増加したが、団体への支援業務を一般社団法人観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が削減となっている。
-----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の事業の方向性	より効果的な経済効果を生むため、団体からの事前相談などの業務を令和4年度に観光協会へ引き継いだ。 令和5年度からは開催にかかる団体へのさらなる支援や補助金支出業務についても観光協会が直接関わることで、事業の効果をさらに高めていく。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	59	項目番号	8(1)
--------	----	------	---	---	---	---	---	---	------	----	------	------

事務事業名	エンターテインメント誘致事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課
-------	----------------	-------	------------------

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	④大河ドラマの活用					
目標	注目される契機となるような話題性のあるイベントを実施。イベントをきっかけに民間資金によるイベントの開催や施設を誘致し、地域資源の活用、地域活性化につなげる。						
目標達成に必要なこと	特に注目度を高めたい地域において、地域資源を活用した話題性のあるイベントを実施し、地域の魅力をPRする。誘致にあたっては、企業版ふるさと納税を財源とした奨励金を交付するなど、民間企業が参入しやすいよう、支援していく。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年NHK大河ドラマ放映を契機とした、三浦一族にまつわる文化財や歴史などの魅力を発信 ・浦賀ドックの利活用を推進していくため、注目度の高いイベントを実施 ・企業版ふるさと納税による奨励金制度を活用したイベントの誘致(「PEACE DAY 2022」オープニングイベントなど) 						

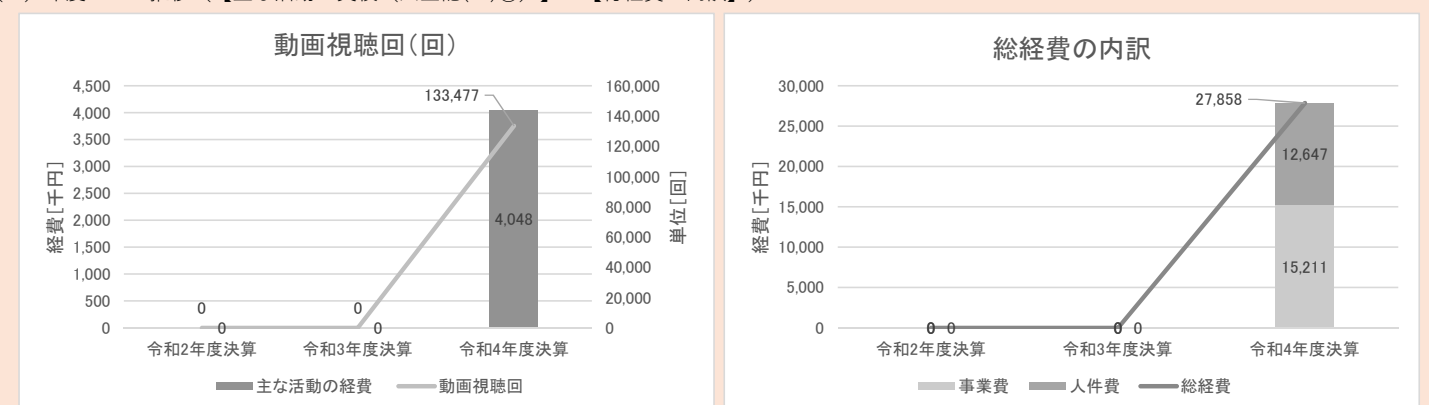
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 三浦一族をゆかりの地PR動画視聴数	動画視聴回	0	0	133,477	回
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 浦賀ドック内における有名YouTuber等による音楽ライブの実施	イベント参加人数	0	0	950	人
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	0	0	15,211	18,742	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	0	4,048	4,581	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	11,163	14,161	千円
b 人件費	0	0	12,647	12,471	千円
正規職員	0.0	0.0	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	0	0	27,858	31,213	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	大河ドラマなど本市の地域資源に注目される機会を契機に、地域活性化につながる事業を実施した。また令和3年度で浦賀奉行所開設300周年記念事がサンセットとなったが、浦賀レンガドックの利活用については引き続き、エンターテインメント誘致事業で活用イベントを実施した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	NHK大河ドラマ放映を契機とした、三浦一族にまつわる文化財や歴史などの魅力を発信した。また浦賀奉行所開設300周年記念事とは別のアプローチで浦賀ドックを活用したイベントを実施した。
----------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	浦賀奉行所開設300周年記念事がサンセットとなり、令和4年度からの新規事業のため、昨年度との比較はできなかったが、NHK大河ドラマを契機とした取り組みや浦賀ドック内における音楽ライブなど、今までに無い新たな取り組みをすることで、横須賀の地域資源の新たな可能性を発信することができた。
-------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の事業の方向性	今後も注目される契機となるような話題性のあるイベントなどを誘致し、地域資源の活用、地域活性化につなげる。また、誘致にあたっては、企業版ふるさと納税を財源とした奨励金を交付するなど、民間企業が参入しやすいよう、支援していく。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	66	項目番号	3(6)
事務事業名	少年期スポーツ障害予防対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第14条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	少年期のスポーツ障害を予防するためには、「怪我をしない体づくり」、「怪我をさせない環境づくり」が重要であり、これらを少年スポーツの現場に浸透させる。						
目標達成に必要なこと	本市の少年スポーツの現場における正しい知識の普及。						
具体的な事業内容	子どもたちが将来にわたってスポーツを楽しめる環境づくりの一環として、少年期におけるスポーツ障害予防対策を実施する。スポーツ整形の医師や本市で活動するプロスポーツチームなどの協力を得て、野球とサッカーの2競技を対象に、検診や予防トレーニングの講習などを実施する。 実施内容 1 医師による超音波検査 2 予防トレーニング講習 3 指導者向けの講話						

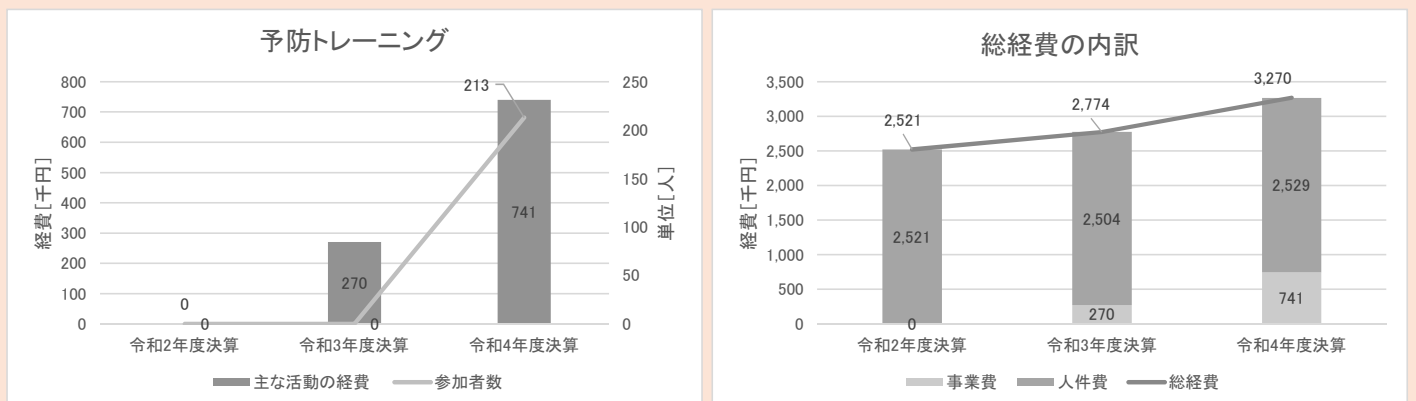
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 予防トレーニング	参加者数	-	-	213	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	0	270	741	756	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	270	741	756	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	2,521	2,504	2,529	2,494	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	2,521	2,774	3,270	3,250	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和2年度より事業開始。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、講習会およびトレーニング指導を動画配信という形となったが、4年度に初めて対面式で開催した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	対面式で行ったことにより、物品購入経費や協力スタッフへの報償金の支出が増となった。		
今後の事業の方向性	少年期にスポーツ障害に対する正しい知識を身につけてもらい、「怪我をしない体づくり」や、指導者も正しい知識を身につけることで、「怪我をさせない環境づくり」を横須賀市の少年スポーツの現場に浸透させるため継続して事業を行っていく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	67	項目番号	4(5)
事務事業名	社会体育団体等補助金(スポーツ選手育成強化事業補助金)								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第34条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	各種目選手の競技力向上。						
目標達成に必要なこと	選手強化事業に取り組むための支援をすること。						
具体的な事業内容	・スポーツ協会では、選手等のための食生活やケガ予防等についての講習会・講演会の開催、有望選手のメディカルチェック、傘下種目団体へ事業交付金・活動奨励費の交付のほか、選抜選手強化事業、特定競技強化事業を実施している。						

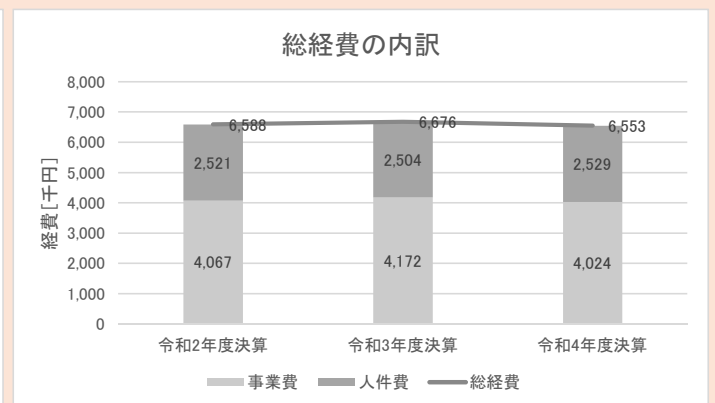
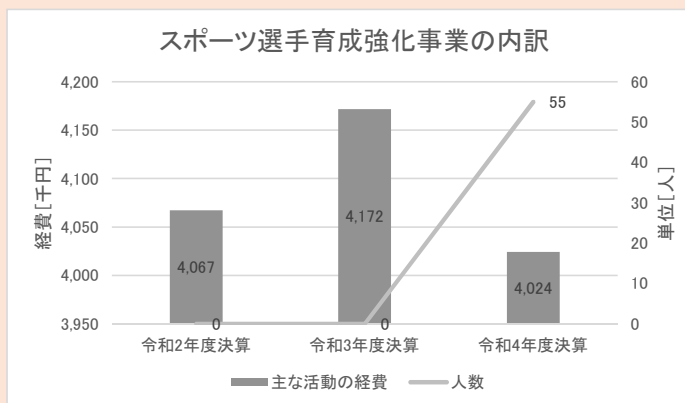
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会出場者	人数	0	0	55	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	4,067	4,172	4,024	5,950	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	4,067	4,172	4,024	5,950	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	2,521	2,504	2,529	2,494	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	6,588	6,676	6,553	8,444	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、横須賀市体育協会での選手育成強化事業を予定より縮小した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	左記同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、横須賀市体育協会での選手育成強化事業を予定より縮小した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2～4年度では横須賀市スポーツ協会が行う講習会等の選手育成事業が中止や縮小となっている。令和2年度、3年度は国民体育大会および全国障害者スポーツ大会が中止となったため参加者が0人である。		
今後の事業の方向性	次期オリンピック・パラリンピックを見据え、引き続き継続していく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	68	項目番号	5(1)
事務事業名	ホームタウンチーム活動推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	本市を活動拠点とするプロスポーツのホームタウンと様々な連携を行い、トップアスリートと子どもを中心とする市民とのふれあいの機会を創出することで、スポーツに対する関心を高め、本市のスポーツ振興を図る。						
目標達成に必要なこと	子どもたちがプロスポーツ選手と触れ合う機会を創出						
具体的な事業内容	横浜DeNAベイスターズファームチーム:選手が小学校へ訪問、コーチ等が幼稚園に訪問 横浜F・マリノス:コーチが小学校・幼稚園・保育園・こども園に訪問						

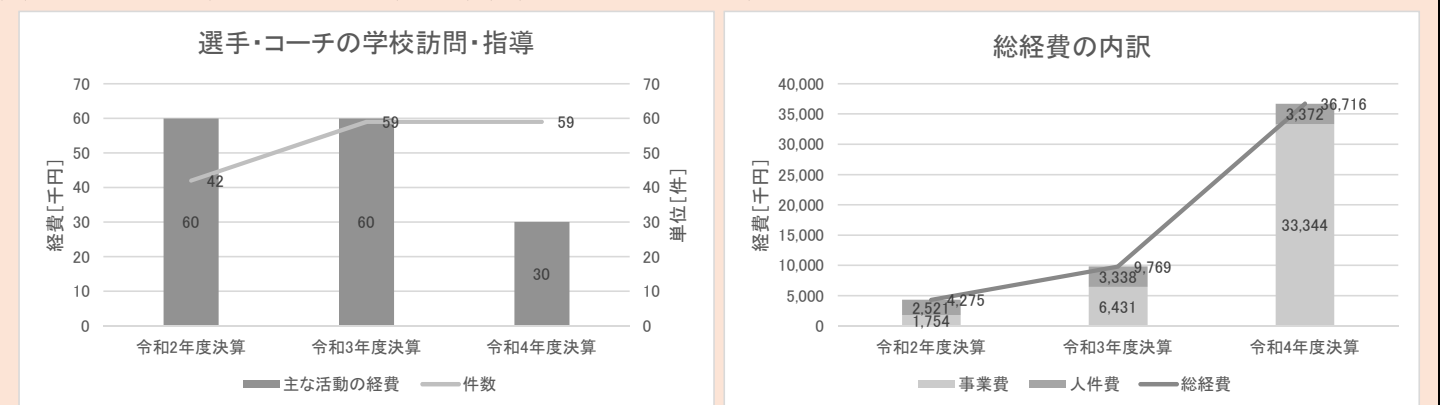
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 選手・コーチの学校訪問・指導	件数	42	59	59	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 横須賀市こども招待デーのチラシ印刷・配布(ベイスターズ)	配布数	0	29,000	27,870	枚
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	1,754	6,431	33,344	116,722	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	60	60	30	60	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	1,694	6,371	33,314	116,662	千円
b 人件費	2,521	3,338	3,372	3,326	千円
正規職員	0.3	0.4	0.4	0.4	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	4,275	9,769	36,716	120,048	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	企業版ふるさと納税を財源とするスポーツ教室事業を開始した(マリノス)	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	マリノスのスポーツ教室事業の実施については、企業版ふるさと納税を財源とすることに完全移行した。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	横浜DeNAベイスターズに関する取り組みとして、学校訪問、新入団選手歓迎式、秋季キャンプ連携など、横浜F・マリノスに関する取り組みとして、学校訪問、マリノス原付ナンバープレートなどを継続して実施し、さらに令和4年度は、「F・Marinos Sports Park ~Tricolore Base Kurihama~」の整備に伴い、電柱ラッピング等の街なか装飾や、優勝を記念した取り組み、企業版ふるさと納税を活用した循環型社会推進施策などを新たに実施した。総経費の内訳の増減としては、令和3年度は企業版ふるさと納税を財源としたサッカー教室の実施により、令和4年度は「F・Marinos Sports Park ~Tricolore Base Kurihama~」の整備に伴う新たな施策の実施により、総経費が増となった。活動実績については、令和3年度に企業版ふるさと納税の活用に伴い対象学年を低学年から全学年に拡充したことにより増加した。		
今後の事業の方向性	2019年に追浜にベイスターズのファームチーム施設「DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA」、2023年に久里浜に横浜F・マリノスのトップチームの練習場「F・Marinos Sports Park ~Tricolore Base Kurihama~」が整備されたことを契機に、プロスポーツチームを身近に感じられる環境を活かした取り組みを実施し、追浜・久里浜地域を中心としたスポーツによるまちづくりを一層推進していく。		